

書評

PT入門 イラストでわかる運動器障害理学療法

上杉雅之(監修)
横山茂樹, 甲斐義浩(編著)

B5判・308頁
定価4,950円(本体4,500円+税10%)
医歯薬出版刊, 2021年



評価を的確・適切に 実践できることをめざした書

[評者] 加藤茂幸 広島国際大学

本書は「イラストでわかる」シリーズの運動器障害理学療法版です。「イラストでわかる」シリーズはこれまでに多くの種類が出版されていますが、本書は2021年に発刊されたばかりの新刊です。このシリーズの特徴の1つはイラストが多用されている点で、それは理学療法士養成校の学生にわかりやすく伝えるためです。さらに解説も読みやすくまとめるように工夫されています。

各章の構成は、概略に続いて、上肢(腱板断裂, 肩関節脱臼, スポーツ肘関節障害, 橈骨遠位端骨折), 体幹(頸部脊椎症, 腰椎椎間板ヘルニア, 非特異的腰痛), 下肢(変形性関節症, 大腿骨頸部骨折/転子部骨折, 膝前十字靱帯損傷, 足関節外側靱帯損傷), 関節リウマチ, 末梢神経障害と

なっています。評価項目や検査方法を数多く掲載していることに加え、治療計画およびプログラムについてもイラストと写真が豊富に使用されており理解しやすくなっています。また、「先輩からのアドバイス」や「トピックス」などのコラムによって、臨床上のヒントや最新の情報を得られるように工夫されています。さらに各章の終わりには、理解度を確認するための穴埋め問題(確認してみよう!)が掲載され、国家試験の出題範囲を考慮した問題が選定されている点も新しいと感じます。運動器理学療法を勉強しようとする学生に役立つと思われます。

本書は「評価に始まり評価に終わる」という基本を大切にしています。評価項目や検査方法を数多く掲載し、他部門からの情報収集

や理学療法評価, 問題点抽出, 治療プログラム実践, 効果検証までの「流れ」のなかで、「評価」を的確かつ適切に実践できることを目指しています。また、関節可動域(ROM)テストや徒手筋力検査(MMT)などの機能・能力面に関する評価を実践することに先立って、対象者の主訴・ニーズを理解し、病態を把握することの重要性が理解できる内容になっています。

実際の臨床場面では、評価と治療は常に一体であり、同時に行われます。また、運動器障害を対象とする場合、刻々と変化する対象者の状況に合わせて適切な評価と治療が求められます。この評価と治療の関係性を、養成校の学生は本書で学びつつ、医療機関での学外臨床実習へとつなげてもらいたいと思います。